

これまでに出了された意見について（論点整理）

区分	番号	意見
紙 ご み	1	子供会、自治会、婦人会に入っていない人が排出可能な古紙（雑がみ）回収に係る周知が必要
	2	住民が古紙回収へ協力すること及び雑がみについて認知向上させることが必要
	3	ごみカレンダーでは紙ごみも可燃ごみで出せるようになっているが、分かりやすいように汚れた紙ごみと表記してはどうか
	4	自治会未加入の家庭にも居住地域の自治会の古紙回収に協力を呼びかける。（売上金、報奨金は自治会に属す。）
	5	大きな封筒は紙質もしっかりしているので、大きな使用済み封筒から小さな封筒を作る。立派な封筒が作れます。またはきれいな柄の使用済み包装紙を、柄側を内側にして、封筒を手作りする。
	6	私が住む城陽市〇〇地区は古紙回収を子ども会が運営しているが、現状は古紙として出されているのは新聞紙、段ボールがほとんどで、雑紙（ざつがみ）を出している家はかなり少数。 「雑紙」とはどんなもので古紙回収にだしても良いものなのか、たぶん知られていない、古紙を出している家庭がすべて雑紙を出すようになれば紙のリサイクル率も上がり、ごみの減量にもつながる。ちなみにうちの家は2人家族で3週間で約1キロの雑紙がたまります。お菓子の箱、レトルト食品の箱、ダイレクトメールなどいろいろです。 「雑紙」の認知を上げるため城南衛生管理組合さんのエコネット城南で雑紙とはどういうものか古紙として回収できるということを以前にも発信されていたかもしれませんが、今一度大々的に宣伝していただきたくお願いいたします。
	7	自治会の古紙回収で、紙ごみを出せる事知らない人が多い。古紙回収で出してよいことを、広報や地域の回覧板で啓発することが大事。残念ながらエコネット城南見ている人が少ないと思う。（持ち手付きの紙袋に入れて出しています。）シュレッダーにかけたごみを古紙回収に出せるのかどうか？
	8	以前弁護士会の名前の入った「チラシ投函不要」のステッカーをもらった事があるが、それを希望者に配布して欲しい。効果…ピザ、不動産求む、高压洗浄、宗教、廃品回収等々、ポスティングされるチラシが多く、月にかなりの量がたまる。古紙に出せばリサイクルされるとはいうものの、紙資源の使用自体を抑制したい。
	9	ホームセンターなど、ダンボールの回収ボックスが設置されている店舗が多数あるが、そのマップを公開し、利用を呼びかける。効果…町内会、自治会の活動で古紙が集められ、報奨金も出ているようだが、町内会や自治会に入っていない世帯も多くあり、紙資源が可燃ごみとなることを防ぐためには必要な情報である。
	10	学校で配られたプリントの後ろの真っ白部分で漢字の練習や筆算をして紙ゴミを減らす。使い切ったティッシュケースをゴミ袋代わりにして、部屋ごとのゴミ箱をいくつも買わない。
生 ご み	11	コンポスト・生ごみ処理機等の導入補助制度の拡充が必要
	12	野菜の皮や大根やカブの葉など栄養があるけど捨てられることが多いものを有効活用できる情報（栄養があって美味しく食べられること、食べきりレシピなど）がもっと広く周知されるといい
	13	生ごみは、庭・ベランダで乾燥させてから処分しています。野菜の切れ端などは、ほぼ消滅します。
	14	スイカを食べたあとの皮をそのままごみとして捨てるのではなく、必ず日に干して水分を抜いてから捨てます
	15	生ゴミ・剪定した枝や葉・抜いた雑草を一か所に集めて、JAなどの精米所で無料でもらってきた米ぬかを入れ込むことで、生ゴミや枝や葉や雑草が発酵し、家庭での園芸や野菜栽培における無料の有効な肥料として活用しています
	16	毎日使う麦茶などのティーバックはしっかり水を切ってから天日干しにします。剪定した枝・葉は少し乾かしてから出します。スイカの皮はプランターの土の上に皮の方を上

		にして置くと、何日か経つと薄皮一枚になります。
	17	生ごみの水分を減らすため、生ごみ処理機の購入補助も導入してほしい。
	18	お茶葉、コーヒーかす、再生用土、落ち葉等はコンポストを利用しています。
	19	使い切り、食べきりをしっかりやるため、具体的な方法として、冷蔵庫内をチェック（消費期限など注意して必要なものだけを用意する。）、残った食材（野菜など）カレー料理に生かす。また、生ごみコンポストも使用する。
	20	紅茶の葉はポン酢と白ごまで和えて一品として使っている。野菜も効率よく上手に使う工夫している。
	21	野菜、果物の皮、たね等は、庭に埋めてます（米ぬかを少し加えたり）。しばらくすると、土が柔らかくなります。もえるごみの日に出すごみがすごく減ります。各家庭で実行すればごみの量がかなり減ると思います。
	22	生ゴミ処理機はお金がかかるから、野菜くずを畑に埋めています。今までミミズが少なかったのですが、野菜くずをまくようになってからはミミズが増えました。学校のプリント、紙類は古紙回収に出しています。なかなか量になります。
	23	基本、大根や人参等、皮ごと食べられる物は皮を剥かず、たわしでこすって調理しています。（よほど汚れていたり、変色している場合はその部分だけ剥きますが...） 40年以上前から母がそうしていたので、私も皮を剥くという概念が無く、大人になって他のママさんに「皮剥かずに食べてるの？」と驚かれました。他は、キャベツの芯や、白菜の芯も食べてます。皮のゴミも出ないし、少しはエコになってるのかな？
プラごみ	24	「プラごみの分別」 洗って乾かしたり、紙のシールを剥がしたり、プラ以外の部分を切り離したりしてプラごみに捨てられるものはプラごみに捨てる。
	25	「プラマーク汚れていたらもえるゴミ」 プラマークの分別に頭を痛めますが、家族にもわかるようにごみ箱のふたに貼り、基本にしている。
周知啓発	26	住民がごみを排出するにあたり分別意識を向上させる広報が必要
	27	環境美化について教育の機会を増やすため、出前講座の開催が必要
	28	ごみ排出時の分別を徹底させるために、市町と組合が協働して大々的に広報すべき
	29	企業による製品回収や集会所やスーパーでの情報発信強化が必要
	30	市町で分別方法が異なるため、この機会に統一して周知をやりやすくしてはどうか
	31	ごみ分別、減量について住民参加型の周知活動が必要
	32	分別ができていないごみ袋は回収しないなど厳しい対応も必要
	33	間違った分別で排出されている事例を啓発すべき
	34	第1回推進会議で紹介されたアムステルダムで取り組まれている10Rも先進事例として取り入れるべき
	35	布おむつの使用奨励、子供服のお下がり、市町規模のリサイクルシステム構築
	36	リサイクル率向上をごみ減量の目標の一つとしてはどうか
	37	小型家電が公民館で回収されていることを知り今まで迷わず燃えないゴミに出していた小型家電をゴミにせず回収ボックスに持って行った。知らなくて燃えないゴミにだしているひとも多いんじゃないかと思う。もっと周知できるように広報だけでなく集会所の掲示板やスーパーなどに掲示するとかするとういのかと思う
	38	よしずのスタレはなぜもえないゴミなのかわかりません。（周知が行き届いていない）
39	【要望】ごみを減らすには何といても私たち一人ひとりのごみを減らそうという意識が大事です。そこで管理組合様による出前講座をお願いしたいです。 【内容】 1. テーマ：ごみを減らすことの大切さ 2. 場所：各町内にある集会所 説明会（セミナー）を開催していただけないでしょうか。	
40	選挙の投票日になると、同報系のスピーカー、広報車など様々な方法で投票が呼び掛けられるが、それと同じレベルでごみの分別を毎日呼び掛けてはどうか。効果…広報紙を	

		読まない人にも分別の必要性、重要性を伝えることができる。
	41	ごみの分別をきちんとする。できるだけ水筒やマイボトルを持参する。
減量各種アイデア	42	「資源ごみの分別」 ネットで服を買った時についている大きめの紙袋に資源ごみをいれ、買い物の際に近くにある資源回収ステーションに持ち込む。また、最近は気温が上がり、生ごみの処理が大変になってきたので、使い古しのジップロックに生ごみを入れゴミ出しの朝まで冷凍庫に保存しておくという取組も行っている。
	43	アルミ缶のみの回収日を作り、回収後リサイクル業者に持って行って欲しい。現在、私は町内会で集めている日に出しています。集めたアルミ缶はリサイクルされ現金化され、お金は子供会費になっています。その日に出していない人はごみ収集の缶の日に出しています。いつも町内会で出したら良いのにとおもうのですが月一の回収だしみんな手間なのかな？と思うので仕方ないとおもうのですが換金目当てでアルミ缶などを持って行く車を度々見かけます。 正直知らない人のお金になるぐらいなら市で回収し費用は市に入ると財政も少し良くなるし、リサイクルされ環境にもいいのかと思います。
	44	子供服はお下がりですり、譲ったりしています。
	45	オムツは紙オムツではなく布おむつを使用しています。
	46	先日初めておもちゃのかえっこバザールに参加し、お手伝いなどしてポイントを貯め、おもちゃを見てみるとまだまだ使えるおもちゃ達と交換し、子供が外出にも持って行ったりめちゃくちゃ使用しています。持って行ったおもちゃも帰宅時にはなくなっており誰かが貰ってくれたのがすごく嬉しかったです。家に帰宅後、おもちゃを減らすのを嫌がった子でしたが次の持ち主に行く事が分かったので手放してくれるようになりました。もう少し認知されてもいい活動です。
	47	かえっこバザール同様に子供服の交換会も期間限定でもいいのでしてほしい。例えば 10時から 11 時までお洋服回収。12 時から交換会開始。余った服は古紙回収に。
	48	一度使ったティッシュのごみだけのゴミ箱を作り再利用で食後のお皿の汚れを拭き取ったり、フライパンの油汚れを拭き取ってから洗うようにしています。また、流し口のゴミを拭き取ったり、お風呂場の排水溝の汚れを拭き取ったりして再利用しています。
	49	ごみ処理に係る経費を具体的に示し、減量することで節約できる経費で、医療福祉、教育など市民生活を豊かにする分野にこれだけのお金を回すことができ、具体的にこんなことができると示す。
	50	断捨離で不要になった物品を市町村規模でリサイクル、格安販売してもらえるシステムを充実させる。(不用品を個人搬入できたり、いつでも購入できたりするフリマ施設のようなものがあれば楽しい)
	51	学校の学習補助品(習字の道具、ピアノ、リコーダーなどの楽器、理科実験道具)など共有して使えるように検討する。(個人購入の負担も期限される)
	52	売り手の責任を高める。 ユニクロやニトリなどは不要になったものを企業単位として回収している。せめて売ったものは回収してリサイクルできる方法を確立させてほしい。特に、電気製品、布団などは捨てるのにも抵抗があり半永久的に修理、補修して使えるような製品を企業に作ってほしい。
	53	過剰包装はしない、プラスチック製品での包装を極力控えるなど製造会社に求める。(プラスチック製品での包装を極力減らすのは製造時にしないと個人ではできない)
	54	それ自体がごみである菓子袋や衣類の包装紙をごみ袋の代用で使用している。
	55	樹木の剪定くずをこの夏の乾燥対策として土の上に敷いている。
	56	着れなくなった服などを宇治市役所に持って行ったり、お母さんが、はかなくなったズボンで、カバンを作ったりしています。
57	子供の小さくなったジャージやズボンを切って、寝るときなどに、足につけて足が冷えないようにしています。	

58	<p>「子供用品のリユース」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育機関を活用した子供用品全般のリユース事業 ・子供用品が必要な時に新品を購入するというのも一つの方法だが、おさがりを活用することがごみ減量の一つとして検討できる。 ・おさがりに抵抗がある人も多いが、子供に対してリユースについて教育すれば、親の意識も変わっていく可能性がある。 ・教育機関が主体となって交換できる場を提供できれば、フリマ等にわざわざ出かけることなくリユース品を探すことが可能。
59	<p>「家具や衣服のリペア」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・壊れているものを直すということがリペアと思われがちだが、ビジネスとしては成り立ちにくい。 ・リペアのメリットは材料費が安く済む。余った予算で新たな付加価値をつけて販売することができる。 ・家具の場合でも、足にクッションをつける等付加価値をつけて販売することが可能。 ・宇治であれば廃棄される宇治茶の使用済茶葉を、せっけんの香り付けに活用する等。
60	<p>「リセールの行政支援」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フリマ出店経験からリセールに着目。 ・フリマ出店した際出店料が必要となるが利益が少なくなるため、学生が求めているのは、行政が場所提供、出店料補助、什器貸出をやってもらえればさらにフリマ等でのリセールが増える。 ・行政が実施するイベントではPR方法も課題となるが、TikTok、インスタ等の活用方法は若い人や学生が詳しいので、得意な分野で協力可能。 ・ごみと思わず、新たな価値観を見出してもらうことを重要視している。 ・古着というと、誰かが着古したものと嫌われることもあるが、新たなタグをつける、古本であればブックカバーを学生がデザインする、学生が出店している等といった付加価値をつけて販売する。 ・行政が実施しているHP、掲示板、ポスターの作成等、学生とコラボして実施するということができれば面白いものが作成可能。 ・行政にすべて任せるのではなく、学生の知識、行動力、つながりを活用してほしい。
61	<p>「リサイクルの大々的な宣伝」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品ロス、おもちゃ、古着等の再利用が必要。 ・古紙のリサイクルのため、ショッピングモールに回収ボックスを設置する。 ・古紙回収の促進のため、宣伝（周知）が必要。より広く周知するため、例えば宇治市であれば京都大作戦、市出身の著名人とタイアップし、リサイクルの大切さを発信する。 ・立命館宇治高校では中学高校で制服が変わるため、そのタイミングで制服のリセールを購買等で実施する。売る側には収入があり、買う側には安く買えるというメリットがある。
62	<p>「ショッピングモールの活用」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民はごみの分別カレンダーにより分別を行うが、分別についてあまり意識ができていない世帯がある。 ・ごみを分別しない人の心理状況としては、自分にとってのメリットがない、めんどくさいということが要因。 ・分別を意識してもらえよう子供から高齢者までどうやってアプローチするか考えた場合、子供⇄大人⇄高齢者を一体とした多世代交流のサイクルを生成することが必要。 ・多世代交流のサイクルをまわすため、多世代が参加できるイベントの企画を行う。イベント参加には、参加者のメリット創出、参加のためのハードルを下げる必要がある。 ・まず参加のためのハードルを下げるため、ショッピングモールでイベント開催する。ショッピングモールで開催するメリットは、親子世代が買い物ついでに参加できるということが、参加のハードルが下がる大きなメリット。さらに、ごみ問題だけのイベントを行政単独で開催するより、様々な世代に多く参加してもらいやすいショッピングモールでの開催が重要。

		<ul style="list-style-type: none"> ・次に、参加者のメリットを高めることについて。人は自分にメリットがないとなかなか行動してくれない。だから、イベントに参加することによるメリットとして、農家とタイアップし野菜をもらえる参加賞を用意する。親子世代にとっても野菜をもらえるのは大きなメリット。 ・子供にとっての学びやメリットとしても、ごみ問題を自由研究のテーマにできる等のプロモーションも可能。 ・農家とタイアップするメリットとして、生ごみの減らし方、食べきりレシピ等、先人の知恵を継承する高齢者から子供世代への多世代交流の機会を創出する。 ・ごみ問題だけに着目するのではなく、温かい社会の構築、多世代交流の推進といった視点で、地域全体で一緒にごみ問題に取り組んでいける雰囲気づくりを行う。
その他	63	事業活動に伴って排出される事業系一般廃棄物に対しても厳しいごみ減量義務化を検討すべき
	64	将来的に埋立地（最終処分場）の確保が困難なことから、埋立ごみゼロを目指す
	65	食品トレーはスーパーに設置されているリサイクル BOX に持っていくと、家庭ゴミが減り、食品トレーのリサイクルにも繋がるので一石二鳥になる。回収に際してスタンプカードなどが押されて、商品やスーパーのポイントに交換できるなどの周知が広がればいい。
	66	商品は販売されている現物でなく、試供品のようなものでも企業にとって商品を知ってもらえるチャンスになる
	67	京滋バイパスの出入口の植込みに投げ捨てられた缶・ペットボトル・袋類が散らかっています。信号待ちの時に届くものは家に数個ですが持ち帰ったりします。植込みが手入れされないと見えないのでよけいに不届き者がいるのかと思います。芝生にしてごみが捨てにくい情景にしてはどうかと思ったりします。私の勝手なお願いです。子供のころから環境美化について教育してほしいです。
	68	サークルで、物品等工作してアートの作品として紅花とコラボすると、使い道いろいろあり大変面白い。生花展等最近ではアートと上手に組み合わせしてグッドアイデアと思う。
	69	八幡市では月の第5週には資源ごみの回収がない。その日に衣類や古布を回収して欲しい。効果…回収した衣類や古布をリサイクルや売却することができればごみの減量につながる。
70	スーパーで買った商品をバックに入れる時に、ビニール袋をたくさん持って帰る人がいる。必要な分だけ使えるようにお肉やお魚売り場など袋を使うところにだけ設置しておく、必要な分だけビニール袋を使うようになると思う。お会計の後の袋詰め場所も混まなくなって良いと思います。	
経済的手法	71	ごみ分別、減量について周知しても行動変容（協力）してもらうには経済的手法が必要
	72	住民にごみ分別、減量に協力してもらうにはごみ袋有料化が有効
	73	ごみ袋の有料化については、京都市などの例を見ると反対。不法投棄が増え、スーパー、生協のごみ箱にトレーやラップがあふれ、ごみ出しに使用できる透明袋を（有料化して指定袋となれば）ごみとして出すことにより、かえってごみが増えることになる。
	74	家庭から排出されるごみについてはごみ袋の有料化を行う。また事業系廃棄物については家庭系よりも処理手数料を高く設定する。家庭系ごみだけではなく、事業系ごみの減量も必要
	75	レジ袋有料化によりマイバックの普及率が上がったようにごみ袋有料化が有効であると考えます。

出典：第1回循環型社会推進会議（令和6年8月21日）

循環型社会推進会議意見交換ワークショップ（令和6年11月2日）

ごみ減量アイデア募集（エコネット城南令和6年7月号）

ごみ減量アイデア募集（エコネット城南子ども特集号令和6年7月号）

出された意見に対する組合の考え方

1 紙ごみ

- 古紙、雑がみについての情報が住民の皆さまに十分届いていないという課題があるものと考えています。市町と協働して雑がみについての正確な情報提供に努めます。
- 市町で実施されている自治会・町内会活動を通しての古紙回収や古紙回収事業者の回収ステーションなどの情報提供に努めるほか、組合と市町が協働し雑がみの取扱いを検討します。
- 紙の再利用の取組については、管内住民の皆さまの参考としていただくため、組合ホームページの「わたしこんなことやっています」のページに掲載させていただきます。

2 生ごみ

- コンポスト及び生ごみ処理機の普及は生ごみ減量に有効な施策の一つであると考えています。また、コンポストにより発生するたい肥の用途に困っているという声もいただいております。生ごみを分解してもたい肥が発生しない「キエーロ」についても、生ごみ減量に有効な施策の一つとして周知啓発してまいります。
- 組合ではホームページでエコクッキングの情報提供を行っており、テレビ番組の中で取り上げられたことがあります。今後もエコクッキングをはじめ皆さまから工夫されている情報をご提供いただき、管内住民の皆さまに情報提供を進めます。
- 生ごみ減量化の取組については、管内住民の皆さまの参考としていただくため、組合ホームページの「わたしこんなことやっています」のページに掲載させていただきます。

3 プラごみ

- 脱炭素社会に向けての CO2 削減のためにはプラスチックを焼却しないことが重要ですので、引き続き、確実にリサイクルができる分別の取組をお願いします。
- プラスチック製容器包装とプラスチック製品一緒に回収する「プラの一括回収」を検討します。(令和8年度導入に向け協議中)

4 周知啓発

- 組合及び市町の広報紙、ホームページ、環境イベントの開催等既存の広報啓発方法に加え、市町と協働して新たな広報の方法を検討します。
- 市町では廃棄物担当部局が小学校を巡回して環境美化教育を実施されているところもあり、実施されていない市町への情報提供を進めるとともに、組合では出前講座開催

のご要望にはすべてお応えしております(令和 5 年度実績 18 回)ので、ご要望をお待ちしております。

- 企業による製品回収には新たな法律や改正が必要なものもあり、市町から国等に要望することを検討していただきます。また、その他の情報発信につきましても、市町と協働で取組を検討します。
- 各市町で分別方法が異なることについては、ごみ排出時のわかりやすさを重視し、名称や分別区分の統一について検討します。
- 住民の皆さまに情報拡散していただけるSNSの活用を含め、また、住民の皆さまにお越しいただけるよう、魅力的な環境イベントの開催、「環境ふれあいひろば」の充実に努めます。
- 市町では明らかに分別できていないごみ袋は収集していませんが、どうすれば分別にご協力いただけるのかを検討し、行動変容していただけるような方策を市町との協働で検討します。
- 間違った分別、分かりにくい分別等について、きめ細かな情報提供を市町と協働して進めます。
- ごみ減量につながるリユース事業は重要と考えており、幅広い住民の皆さまに利用いただけるよう、「環境ふれあいひろば」にリユースコーナーを設けるとともに、(株)ジモティーと連携しリユース活動の促進にも取り組んでいるところです。さらに充実を目指します。
- ごみ減量を進めるためにはリサイクル(資源化)率の向上が大きく寄与することとなりますので、資源化を進めるため、分別の啓発をはじめ新たな資源回収を市町と協働して検討します。

5 減量各種アイデア

- ごみ減量に有効な取組を管内住民の皆さまの参考としていただくため、組合ホームページの「わたしこんなことやっています」のページに掲載させていただきます。
- 市町で回収し当組合に持ち込まれたアルミ缶などの資源ごみについては、入札により売却させていただき、得られた収入は組合の運営に充てられ、結果、その収入分は市町の分担金が減ることになります。
- かえっこバザールについては、「eco っと宇治」さんのご協力のもと、今後も当組合環境イベントとして実施する予定にしています。
- ごみ処理にかかる経費については、組合の広報紙やホームページなどでお知らせします。また、ごみ減量と経費の関係につきましても、シュミレーションする必要があると考えています。
- 断捨離等で不要となっている物品については、「環境ふれあいひろば」のリユースコーナーで対応できるよう検討を進めます。

- 学校の学習補助品等については、教育現場でのリユースが進むよう、市町から教育委員会に働きかけを検討していただきます。
- 売り手の責任を高めることについては、企業による製品回収には新たな法律や改正が必要なものもあり、市町から国等に要望することを検討していただきます。
- リペアについては「環境ふれあいひろば」の工房機能として研究します。

6 その他

- 事業系ごみの減量化については、排出事業者に協力いただけるよう、周知・啓発に努めます。
- 最終処分場には限りがあります。まずは、ごみ減量に積極的に取り組む必要があると考えています。
- 食品トレーについては、市町と協働で食品トレーの回収を実施しているスーパーマーケット等の情報提供に努めます。
- 市町においては、エコアクションポイント事業により、環境にやさしい取組に対しポイントの付与が行われているところがありますので、その拡充を求めています。
- アートとのコラボについては、「環境ふれあいひろば」玄関にはそのシンボルとして廃棄物アートを展示しています。市町でも廃棄物アートの作品募集によりごみ減量に取り組まれた事例があります。
- 組合では、アートの視点を取り入れるなど、楽しみながら環境を学べる「環境ふれあいひろば」にしていきたいと考えています。
- 衣服や古布の回収方法や資源化については市町と協働して検討します。

7 経済的手法

- 経済的手法が有効であることは先行事例がありますが、住民の皆さまにご負担を強いることとなります。
- まずは市町、住民の皆さまとごみ減量に取り組みたいと考えています。
- ごみの不法投棄については、他の自治体でごみ袋有料化の導入により不法投棄が増えたという事例は見受けられませんが、市町のパトロール強化や啓発活動などにより抑制を図る必要があると考えています。